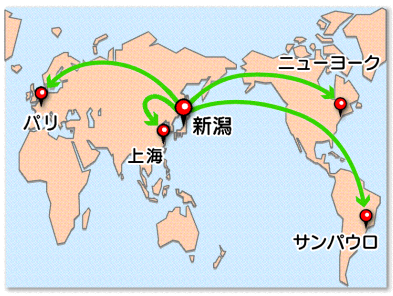
2017年04月03日 新潟日報 朝刊 解説面 009頁　　(C)新潟日報社　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

グローバル にいがた　国際交流拠点から

新潟日報社が開設した米ニューヨーク(NY)、ブラジル・サンパウロ、中国・上海、欧州(パリ)の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子をリポートしてもらい、毎月第1月曜日に紹介しています。また、新潟日報ホームページ「モア」にも掲載し、感想や意見を受け付けています。



第1月曜掲載

from ロンドン

ガーモリー笹川真理子さん
＝新潟市西区出身＝

故郷と似た天候、環境

私は故郷新潟で18年暮らしてから上京。大学、就職と15年を過ごした後、ロンドンに留学した。今年で在英30年を迎える。新潟を離れて受けた一番のカルチャーショックは、実は英国で受けたものではない。東京で冬でも降り注ぐ太陽の下、ずらりと布団を干している光景だった。それに比べて英国の第一印象は、なぜか「新潟に似ている」というもので安堵感すら覚えた。

英国は10月末から冬時間となり、夕方4時には暗くなる。天気もほとんど曇ったり、雨だったり、風が強かったり。太平洋側で育った人の中には落ち込む人もいるが、新潟育ちは天気の悪さを託つこともなく、来ないバスを寒風吹きすさぶ中で待ち続ける。若き日に、松林を吹き抜ける、息もできないほどの北西の季節風の中で、みそぎを受けるごとく立ち尽くし、曇天の下、鉛色の日本海が怒濤逆巻き押し寄せるのを見ていた自分がよみがえる。英国人もあまりしゃべらず、黙って〝queue〟(列)を作る。

冬の間じっと我慢を続け、魚屋で1個50ペンス(約70円)のごろっとした、大ぶりのサケの頭を買い、大根と味噌で煮て温まる。英国人もサケは大好きだが、頭を食べる習慣はないので、安値で売っているのだ。

そうこうするうちに日脚も伸び、3月末に夏時間になると途端に夕方6時ごろまで明るくなる。「3月の風と4月の雨が5月の花を連れて来る」と言い習わされるように、地上ではスノードロップや水仙が、目を上げればアーモンドチェリーが順に春を告げる。世界遺産に登録されている王立植物園「キューガーデン」では春の風物詩クロッカスが一面に広がり、人々を戸外に誘う。5月にはチューリップ、バラが色彩豊かに咲き誇る。ちょうど寺尾公園のチューリップを愛でに人々が集まる頃だろうか。

ロンドン市内を横切るテムズ川は信濃川そっくり。河畔のパブでイトヨに似たホワイトベイトという小魚の唐揚げをつまみに、ビールのパイントを重ねる。新潟で生まれ育ったことで、英国での生活力が自然に養われたようだ。四季折々、これからも私の二都物語は続いていく。

(笹川さんは1954年生まれ。教育コンサルタント、教師、翻訳家です)

王立植物園「キューガーデン」のクロッカス・カーペット

from 上海

渡辺　大輔さん
＝新潟市西区出身＝

残業なしで公私充実

2015年に上海に赴任し、約2年たちます。以前は台湾に3年間駐在していたため、上海の生活にはすぐになじむことができました。日本料理店や日系スーパーが充実しており、日本人にとっては世界中で最も生活がしやすい都市の一つだと思います。住めば都というのでしょうか。週末はゴルフや、友人と食事、旅行などをし、有意義に過ごしています。

ただ、微小粒子状物質「PM2・5」などによる大気汚染が今後どこまで健康に影響するか不安ではありますが。

勤務場所は上海中心部の観光地「外灘」に近く、中国各地からの観光客で毎日にぎわっているエリアになります。仕事は旅行代理店で企業向けのセールスをしておりますが、セールスだけでなく、採用、企画、添乗など幅広い業務を経験できています。日本のように大規模な組織ではないため、個々が裁量の多い仕事ができ、非常にやりがいを感じています。

また日々、中国人スタッフと接する機会が多く、彼らの働き方、考え方などを目にしますが、非常に参考になる部分もあります。中国人は「ON」と「OFF」がはっきりしています。中国人スタッフは基本的に残業をしません。それでも仕事が回り、結果を残すスタッフも多いです。そのため業務後のプライベート時間も充実しております。日本で勤務していた時は残業が当然で上司より先に帰りづらい経験をしておりましたので、日本の働き方がスタンダードではないということを感じます。

実際、私も残業をしないように意識しており、夜は上海駐在のさまざまな業種の方と食事をしたり、イベントに参加することで人脈を広げたりしています。日本だとお会いすることができない企業上層部の方々と、プライベートでもお付き合いをさせていただくことで、知識が深まり、私自身の人生の糧となっております。

現地の習慣および文化を理解すると共に、外から日本を見ることで視野が広がり、刺激的な毎日を送れることこそが海外勤務の醍醐味ではないかと思っています。

(渡辺さんは1986年生まれ。エイチ・アイ・エス上海支店で主任をしています)

中国内外から毎日多くの人が訪れる上海の繁華街、南京東路歩行者天国

from ブラジル

佐々木　暁子さん
＝新潟市秋葉区出身＝

移民の国 多様な新聞

インターネットがこれだけ普及する世の中になっても、わが家では以前から新聞を取っています。日本を含む海外のニュースなどはもっぱらネットニュースを利用していますが、家族の中でもブラジル人の夫は紙の新聞も好きなようで購読を続けています。

ブラジルの新聞も日本と同様、各家庭に配達してくれます。ただ、こちらでは町のあちこちに点在するスタンドで買うのが一般的。値段は1部150～300円程度です。サンパウロの東洋人街でも、スタンドにずらりと並んだ新聞の見出しを読み比べながら買い求める人の姿が見られます。

全国紙と各州で発行されている新聞(日本では地方紙)があるのも日本と似ています。サンパウロでは「O ESTADO DE SAO PAULO」がよく読まれているようです。

分野ごとに別刷りになっている新聞もあります。社会、政治、スポーツなど、日本の新聞ならページで分かれていますが、こちらの新聞は分野ごとに独立しているのです。特にまとめ記事の多い日曜版となると驚くような厚さになります。

また、ブラジルが移民国家であることも新聞で改めて認識させられます。イタリア語、ドイツ語、中国語や日本語などの多くの外国語新聞が現地発行されており、公用語のポルトガル語に不慣れな移民らに大変重宝されています。

日本語の新聞では「サンパウロ新聞」「ニッケイ新聞」などがあります。日本とブラジルのニュースを中心に編集され、記事は日本語とポルトガル語で書かれています。

今でこそネットの普及でどこにいても情報を手に入れることができますが、昔は遠い母国からのニュースを母国語で読むことは移民や海外在住者にとってまさに悲願だったのです。

ネットの普及で多くの新聞社がネット配信に参入する中、日本語の新聞は、いわゆる「ネット難民」となりがちな高齢者が情報を得るのに貴重な手段の一つとなっています。

新聞を取り巻く環境が大きく変わっているのは、ブラジルも日本も同じでしょうが、紙の新聞をこよなく愛する人たちのためにも、これからも新聞にエールを送りたいと思います。

(佐々木さんは1971年生まれ。在名古屋ブラジル総領事館勤務などを経て、現在はサンパウロで日本語を教えています)

ブラジルの邦字紙。サイズは異なるものの、題字やレイアウトは日本と似ている

from NY

平木　かよさん
＝NY新潟県人会会員＝

皆で楽しむジャズを

ニューヨーク(NY)といえば、まずキラキラとネオンサインが24時間輝くタイムズスクエア、そして世界最高峰のエンターテインメントでご存じの方も多いかと思います。マンハッタンを斜めに突っ切る長さ約25キロのブロードウェーに沿って、小劇場まで入れると何百というシアターがあり、毎晩数々の人気ミュージカルが上演されています。そしてメトロポリタンオペラをはじめバレエやオーケストラ、そしてダンスに至ってはモダンからストリートまで、世界中から集まった数え切れないほどのアーティストが日々しのぎを削り活躍する所です。

ジャズシーンももちろん、このカテゴリー。南北戦争後のニューオーリンズが発祥の地とされるジャズ&ブルースは時代の流れとともにミシシッピ川を北上しシカゴに入り、NYにたどり着きました。デューク・エリントン、カウント・ベイシーなど天才と呼ばれるミュージシャンが多数生まれ、NYジャズ=スイングといわれる、米国でも貴重な文化をつくり出します。

私は1990年代より、グリニッチビレッジにあるジャズで有名な老舗のライブレストラン「Arturo's」(アルトゥーロ)で週5日、自分のトリオでジャズピアノを演奏し、ニューヨーカーをスイングさせ続けています。今ではすっかり常連のファンの方もできました。連日お店のスタッフも一緒に演奏するバンドメンバーも楽しめるように、アレンジやレパートリーがバラエティーに富むよう工夫して企画、演奏をしています。とても人気のある店なので有名な映画スターやミュージシャンたちも立ち寄ります。毎日演奏に行くのがとても楽しみです。

そして2004年からそのプログラムを、日本を含むアジアの各地や欧州にも持っていくプロジェクトを手掛けています。「平木かよ『ニューヨーク・ジャズ=ワールドツアー』」です。このご縁でジャズとの関わりが深く国際親善名誉市民にデューク・エリントンを持つ新潟には、これまで何度も演奏に訪れています。今年は6月5、6日に新潟、村上両市で演奏会が企画されています。NYジャズをどうぞお楽しみください。

(平木さんは1959年生まれ。ジャズピアニスト・ボーカリストです)

グリニッチビレッジの店で演奏する「平木かよトリオ+1」